

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年10月13日
【四半期会計期間】	第22期第2四半期(自 平成27年6月1日 至 平成27年8月31日)
【会社名】	株式会社ブロッコリー
【英訳名】	BROCCOLI Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 森 田 知 治
【本店の所在の場所】	東京都練馬区豊玉北五丁目14番6号
【電話番号】	03-5946-2811
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員管理本部長 渡 邊 朋 浩
【最寄りの連絡場所】	東京都練馬区豊玉北五丁目14番6号
【電話番号】	03-6892-2077
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員管理本部長 渡 邊 朋 浩
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第21期 第2四半期 累計期間	第22期 第2四半期 累計期間	第21期
会計期間	自 平成26年 3月1日 至 平成26年 8月31日	自 平成27年 3月1日 至 平成27年 8月31日	自 平成26年 3月1日 至 平成27年 2月28日
売上高 (千円)	3,084,246	2,802,148	6,256,593
経常利益 (千円)	805,886	331,161	1,484,628
四半期（当期）純利益 (千円)	505,832	212,763	904,774
持分法を適用した場合 の投資利益 (千円)	—	—	—
資本金 (千円)	331,775	331,775	331,775
発行済株式総数 (株)	32,738,211	32,738,211	32,738,211
純資産額 (千円)	3,589,710	3,988,790	3,988,664
総資産額 (千円)	4,649,154	4,910,450	5,236,390
1株当たり四半期（当 期）純利益 (円)	15.45	6.50	27.64
潜在株式調整後 1株当たり四半期 （当期）純利益 (円)	—	—	—
1株当たり配当額 (円)	—	—	6.50
自己資本比率 (%)	77.2	81.2	76.2
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	307,379	368,639	927,092
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△405,089	△216,379	△1,919,166
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	△428,559	△221,266	△439,062
現金及び現金同等物の 四半期末（期末）残高 (千円)	2,557,866	1,583,991	1,652,997

回次	第21期 第2四半期 会計期間	第22期 第2四半期 会計期間
会計期間	自 平成26年 6月1日 至 平成26年 8月31日	自 平成27年 6月1日 至 平成27年 8月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	6.79	1.16

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社が存在しないため記載しておりません。
3 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。
なお、当社は子会社及び関連会社を一切有しておりません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間における、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

①業績の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、個人消費が回復基調で推移しており、また一部企業においても輸出や設備投資が増加していることで、緩やかな拡大が続いております。海外においては、米国経済が個人消費を中心として伸びた一方で、欧州経済は、低成長率にとどまりました。

当社が属するエンターテインメント業界におきましては、スマートフォンやタブレット等のスマートデバイスにおいて、端末自体の性能進化・通信インフラの発達に伴って、コンテンツの多様化が進んだ結果、普及台数は着実に増加しており、世界規模でのユーザー数の拡大が期待されております。また、ゲーム専用機やブラウザゲームも、依然として底堅い人気に支えられおり、業界自体の多様化・拡大が続いております。

当社は、かかる経営環境下において、更なる事業及び収益の拡大を図るために、コンテンツ部門では、①『うたの☆プリンスさまっ♪』の売上拡大、5周年を契に“ムーブメント化”に全力を上げる ②『うたの☆プリンスさまっ♪』に並ぶ自社コンテンツの創出に向けた体制の整備 ③トレーディングカードゲーム『Z/X（ゼクス）』の更なる挑戦と、新シリーズ制作に向けた人員育成の3点、リアルグッズ部門の自社ライセンス製品では、①『うたの☆プリンスさまっ♪』5周年とTVアニメ3期の最大活用 ②メジャータイアップの実現 ③高価格帯ラインナップの展開と品質管理の確立の3点、他社ライセンス製品では、①ライセンス獲得強化 ②新定番ラインナップの創出とブランドアイテム化の2点、管理部門では、①福利厚生的高度化 ②自社ビル収益化 ③BCP準備資金の内部留保推進と、災害演習のレベルアップ ④法務部門の機能強化の4点をそれぞれ今期の課題として推進しております。

次に、当第2四半期累計期間における部門毎の状況は以下のとおりであります。

（コンテンツ部門）

当社女性向けコンテンツ『うたの☆プリンスさまっ♪』では、プレイステーションポータブル専用ソフト『うたの☆プリンスさまっ♪ All Star After Secret』を3月12日に発売し、関連作品のバックオーダーも堅調に推移しました。『うたの☆プリンスさまっ♪』関連では、4月から6月にかけてTVアニメ第3期『うたの☆プリンスさまっ♪ マジLOVEレボリューションズ』が放映されましたことと連動いたしまして、『うたの☆プリンスさまっ♪ マジLOVEレボリューションズ アイドルソング』CDシリーズとして、4月22日の『クロスユニットアイドルソング 一十木音也・四ノ宮那月』から、6月3日の『うたの☆プリンスさまっ♪ マジLOVEレボリューションズ アイドルソング 寿 嶺二』まで計7作品を発売いたしました。このCDシリーズは、オリコン週間シングルランキングにて全てTOP10入りするなど、好調に推移しております。

その他の女性向けコンテンツでは、株式会社MAGES.原作の『明治東京恋伽』シリーズ第2弾、プレイステーションポータブル専用ソフト『明治東京恋伽 トワキライト・キス』を4月23日に発売しております。また、当社初の男性専属アーティスト蒼井翔太も、4月22日に1stフルアルバム『UNLIMITED』を発売し、オリコン週間アルバムランキング7位にランクインしており、5月には、2nd LIVE 『UNLIMITED』をTOKYO DOME CITY HALLで開催し、約4,000名を動員しております。

一方、スマートフォン向けゲームアプリ『うた☆プリアイランド』は、新機能の追加やコンテンツの拡充等、継続的なアップデートを行い、ユーザー数の維持・拡大に努めてまいりましたが、依然として低調な課金率が続いております。今後のゲームアプリTOTALの戦略は、より音楽性やゲーム性を追求し、顧客満足度が高く、収益の柱の一つとなるような新規タイトル投入を目指してまいります。

また、当社男性向けコンテンツでは、トレーディングカードゲーム『Z/X -Zillions of enemy X-（ゼクス ジリオンズ オブ エネミー エックス）』シリーズのブースター第12弾『魔蟲の人形姫（まこのにんぎょうひめ）』を4月23日に、第13弾『変革の疾風（へんかくのかぜ）』を7月16日に、EXパック第5弾『蒼海の大決闘』を8月20日に計画どおり発売いたしました。昨年以来の競合他社タイトル発売の中、苦戦が続いております。しかしながら今夏には、『Z/X（ゼクス）』のティーチングを行う初心者体験会や交流会、多人数参加型の新機軸対戦形式『レイドバトル』を行うイベント『Z/X（ゼクス）イグニッションキャラバン』を展開しており、イベントを通じて着実にユーザー

のすそ野を広げることと、唯一無二の新拡売策を実施することで、来年への反撃体制を整えております。カードサブライ製品では、既存市場において類似商品による飽和状態が続いております。この為の施策として、下期よりシェア拡大に向けた新市場の開拓と人的パワーの強化を行ってまいります。

（リアルグッズ部門）

他社ライセンス製品は、男性向けコンテンツ市場がヒット作品に恵まれ活性化している事に伴い、新規アイテムの発案・発売により、好調に推移いたしました。

また、自社ライセンス製品では、『うたの☆プリンスさまっ♪』関連グッズがTVアニメ第3期放映に伴い、店頭や通販での販売を強化したこと、7月25日に東京ビッグサイトで開催した『うたの☆プリンスさまっ♪』5周年記念イベント『シャイニングストアサテライト』及び、東京原宿で7月26日から開催中のコンセプトショップ『シャイニングストア』において大々的に展開したことにより、ほぼ計画どおりに推移しておりますが、過去最高売上を記録した昨年度売上の推移には至っておりません。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は2,802百万円（前年同期比90.9%）、売上総利益率は34.8%（前年同期比12.3ポイントダウン）、売上総利益は974百万円（前年同期比67.0%）となりました。

販売費及び一般管理費につきましては、638百万円（前年同期比98.6%）となりました。

これらの要因によりまして、営業利益は335百万円（前年同期比41.7%）、経常利益は331百万円（前年同期比41.1%）、四半期純利益は212百万円（前年同期比42.1%）と前年同期比では前第2四半期累計期間を、大きく下回って推移しております。総じて、当第2四半期累計期間は、他社ライセンス製品など好調に推移する部門がある反面、低調な部門の売上を補うまでには至りませんでした。主力商品の発売を下半期に比重を置いて予定していること及び、前述のアイテム別施策により、下期～来期に向けて、収益拡大効果を生み出す体制を整えております。

②財政状態の分析

(流動資産)

当第2四半期会計期間末における流動資産の残高は2,670百万円で、前事業年度末に比べ460百万円減少しております。現金及び預金の減少69百万円、売掛金の減少484百万円、商品及び製品の増加24百万円、仕掛品の増加33百万円が主な要因であります。

(固定資産)

当第2四半期会計期間末における固定資産の残高は2,239百万円で、前事業年度末に比べ134百万円増加しております。有形固定資産の増加137百万円が主な要因であります。

(流動負債)

当第2四半期会計期間末における流動負債の残高は874百万円で、前事業年度末に比べ334百万円減少しております。買掛金の増加11百万円、未払法人税等の減少345百万円が主な要因であります。

(固定負債)

当第2四半期会計期間末における固定負債の残高は47百万円で、前事業年度末に比べ8百万円増加しております。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産の残高は3,988百万円で、前事業年度末に比べ0百万円増加しております。これは、四半期純利益212百万円が計上された一方で、剰余金の配当212百万円が行われたことが主な要因であります。

③キャッシュ・フローの分析

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は前事業年度末と比べて69百万円減少し1,583百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは368百万円の資金の増加（前年同四半期累計期間は307百万円の資金の増加）となりました。その主な内訳は、たな卸資産の増加額56百万円、法人税等の支払額469百万円などのマイナス要因と、税引前四半期純利益331百万円、減価償却費115百万円、返品調整引当金の増加額9百万円、売上債権の減少額484百万円、仕入債務の増加額11百万円などのプラス要因であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは216百万円の資金の減少（前年同四半期累計期間は405百万円の資金の減少）となりました。その主な内訳は、有形固定資産の取得による支出201百万円、無形固定資産の取得による支出23百万円、長期前払費用の取得による支出11百万円などのマイナス要因と、預り保証金の受入による収入18百万円などのプラス要因であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは221百万円の資金の減少（前年同四半期累計期間は428百万円の資金の減少）となりました。その主な内訳は、配当金の支払額211百万円、リース債務の返済による支出10百万円であります。

④事業上及び財務上対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

⑤研究開発活動

当第2四半期累計期間における研究開発費の総額は11百万円で全て一般管理費に含まれております。

⑥主要な設備

前事業年度末において計画中であった本社の建物付帯工事の新設は、平成27年5月に完了いたしました。
なお、重要な設備の除却・売却等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	100,000,000
計	100,000,000

② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成27年8月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年10月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	32,738,211	32,738,211	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 1,000株
計	32,738,211	32,738,211	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年8月31日	—	32,738,211	—	331,775	—	1,775

(6) 【大株主の状況】

平成27年8月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社アニメイト	東京都豊島区東池袋3丁目2-1	3,400	10.38
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6番1号	677	2.06
東京コンピュータサービス株式会社	東京都中央区日本橋本町4丁目8-14	435	1.32
松井証券株式会社	東京都千代田区麹町1丁目4番地	384	1.17
後藤 雅征	埼玉県上尾市	320	0.97
エヌ・ティ・ティ・システム開発株式会社	東京都豊島区目白2丁目16-20	240	0.73
マネックス証券株式会社	東京都千代田区麹町2丁目4-1	212	0.64
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1丁目2番10号	202	0.61
ユニシステム株式会社	東京都豊島区目白2丁目16-20	181	0.55
コムシス株式会社	神奈川県横浜市港北区新横浜1丁目28-8	180	0.54
計	—	6,231	19.03

(注) 1 JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社から、平成27年1月21日付で変更報告書の提出があり、平成27年1月15日付で以下のとおり株式を保有している旨の報告を受けましたが、当社として当第2四半期会計期間現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記の大株主は、当第2四半期会計期間末現在の株主名簿に基づいて記載しております。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目7番3号	1,223	3.74

2 大和証券投資信託委託株式会社から、平成27年2月5日付で変更報告書の提出があり、平成27年1月30日付で以下のとおり株式を保有している旨の報告を受けましたが、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記の大株主は、当第2四半期会計期間末現在の株主名簿に基づいて記載しております。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
大和証券投資信託委託株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目9番1号	1,026	3.13

3 みずほ証券株式会社から、平成27年2月20日付で変更報告書の提出があり、平成27年2月13日付で以下のとおり株式を保有している旨の報告を受けましたが、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記の大株主は、当第2四半期会計期間末現在の株主名簿に基づいて記載しております。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
みずほ信託銀行株式会社	東京都中央区八重洲1丁目2番1号	1,068	3.26

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成27年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 32,681,000	32,681	—
単元未満株式	普通株式 56,211	—	—
発行済株式総数	32,738,211	—	—
総株主の議決権	—	32,681	—

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式323株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成27年8月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ブロッコリー	東京都練馬区豊玉北 五丁目14番6号	1,000	—	1,000	0.00
計	—	1,000	—	1,000	0.00

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間(平成27年6月1日から平成27年8月31日まで)及び第2四半期累計期間(平成27年3月1日から平成27年8月31日まで)に係る四半期財務諸表について、三優監査法人により四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年2月28日)	当第2四半期会計期間 (平成27年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,852,997	1,783,991
売掛金	877,470	392,881
商品及び製品	126,762	151,712
仕掛品	100,105	133,517
原材料及び貯蔵品	3,414	1,464
その他	170,472	207,378
流動資産合計	3,131,222	2,670,944
固定資産		
有形固定資産		
建物	960,714	1,119,936
減価償却累計額	△26,038	△51,917
建物（純額）	934,676	1,068,018
土地	907,414	907,414
その他	79,020	89,705
減価償却累計額	△49,557	△56,538
その他（純額）	29,462	33,166
有形固定資産合計	1,871,553	2,008,600
無形固定資産	157,886	98,158
投資その他の資産		
その他	77,727	134,747
貸倒引当金	△2,000	△2,000
投資その他の資産合計	75,727	132,747
固定資産合計	2,105,168	2,239,506
資産合計	5,236,390	4,910,450
負債の部		
流動負債		
買掛金	315,905	327,757
未払法人税等	473,258	127,729
返品調整引当金	34,978	44,149
賞与引当金	29,000	57,538
役員賞与引当金	37,000	7,400
その他	318,971	309,887
流動負債合計	1,209,113	874,462
固定負債		
その他	38,612	47,197
固定負債合計	38,612	47,197
負債合計	1,247,726	921,660
純資産の部		
株主資本		
資本金	331,775	331,775
資本剰余金	37,127	37,127
利益剰余金	3,619,618	3,619,592
自己株式	△478	△478
株主資本合計	3,988,043	3,988,017
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	621	773
評価・換算差額等合計	621	773
純資産合計	3,988,664	3,988,790

負債純資産合計	5,236,390	4,910,450
---------	-----------	-----------

(2) 【四半期損益計算書】

【第2四半期累計期間】

	(単位：千円)	
	前第2四半期累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自 平成27年3月1日 至 平成27年8月31日)
売上高	3,084,246	2,802,148
売上原価	1,630,693	1,827,759
売上総利益	1,453,552	974,388
販売費及び一般管理費	※1 647,195	※1 638,403
営業利益	806,357	335,984
営業外収益		
受取利息及び配当金	514	481
不動産賃貸料	-	9,618
その他	121	2,017
営業外収益合計	636	12,117
営業外費用		
支払利息	944	829
不動産賃貸費用	-	16,065
その他	162	45
営業外費用合計	1,107	16,940
経常利益	805,886	331,161
特別損失		
固定資産除却損	0	-
特別損失合計	0	-
税引前四半期純利益	805,886	331,161
法人税等	300,053	118,397
四半期純利益	505,832	212,763

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

	(単位：千円)	
	前第2四半期累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自 平成27年3月1日 至 平成27年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	805,886	331,161
減価償却費	14,747	115,702
賞与引当金の増減額 (△は減少)	44,824	28,538
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△41,000	△29,600
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	701	9,171
受取利息及び受取配当金	△514	△481
支払利息	944	829
固定資産除売却損益 (△は益)	0	-
売上債権の増減額 (△は増加)	△118,749	484,589
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△151,384	△56,411
仕入債務の増減額 (△は減少)	83,373	11,852
その他	△152,242	△57,178
小計	486,585	838,174
利息及び配当金の受取額	514	481
利息の支払額	△944	△829
法人税等の支払額	△178,776	△469,185
営業活動によるキャッシュ・フロー	307,379	368,639
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△100,000	△200,000
定期預金の払戻による収入	100,000	200,000
有形固定資産の取得による支出	△379,236	△201,194
無形固定資産の取得による支出	△14,709	△23,000
長期前払費用の取得による支出	△11,073	△11,065
預り保証金の受入による収入	-	18,909
その他	△69	△28
投資活動によるキャッシュ・フロー	△405,089	△216,379
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△420,098	△211,080
リース債務の返済による支出	△8,460	△10,186
財務活動によるキャッシュ・フロー	△428,559	△221,266
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△526,268	△69,006
現金及び現金同等物の期首残高	3,084,135	1,652,997
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 2,557,866	※1 1,583,991

【注記事項】

(四半期損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自 平成27年3月1日 至 平成27年8月31日)
給料手当	98,554千円	106,514千円
賞与引当金繰入額	37,347千円	29,432千円
役員賞与引当金繰入額	15,000千円	7,400千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自 平成27年3月1日 至 平成27年8月31日)
現金及び預金勘定	2,857,866千円	1,783,991千円
預入期間が3か月を超える定期預金	△300,000千円	△200,000千円
現金及び現金同等物	2,557,866千円	1,583,991千円

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年5月30日 定時株主総会	普通株式	425,579	13.0	平成26年2月28日	平成26年5月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自 平成27年3月1日 至 平成27年8月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年5月29日 定時株主総会	普通株式	212,789	6.50	平成27年2月28日	平成27年5月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社はエンターテインメント事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自 平成27年3月1日 至 平成27年8月31日)
1株当たり四半期純利益	15円45銭	6円50銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	505,832	212,763
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益(千円)	505,832	212,763
普通株式の期中平均株式数(株)	32,736,888	32,736,888

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年10月13日

株式会社 ブロッコリー
取締役会 御中

三優監査法人

代 表 社 員
業務執行社員

公認会計士 小 林 昌 敏 ⑩

代 表 社 員
業務執行社員

公認会計士 齋 藤 浩 史 ⑩

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ブロッコリーの平成27年3月1日から平成28年2月29日までの第22期事業年度の第2四半期会計期間（平成27年6月1日から平成27年8月31日まで）及び第2四半期累計期間（平成27年3月1日から平成27年8月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ブロッコリーの平成27年8月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。